

JA全農 とくしま情報

地域の問題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2022
9月号
No.755



©TOKUSHIMA VORTIS

両チームなどにスダチと梨を贈呈(鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム)

マンスリーレポート 2

- ・キッチンカーコラボイベントで県産スダチと茄子をPR
- ・露地スダチの初売り
- ・「ご当地ジュース」をPR
- ・「さめきの夢応援店」17店舗のうどん店でスダチPR
- ・「阿波ふうどフェア」北海道でPR
- ・徳島県産スダチ・なると金時・梨をPR
- ・徳島県、徳島大学との「産学官連携による地域バイオマスを有効活用した持続可能な農業の実現と関連産業の振興に関する協定書」締結式
- ・れんこん栽培研修会
- ・スダチ新品種「勝浦1号」
- ・徳島駅バルすだちフェア

旬の野菜でおうちごはん 7

- ・すだちと鯛のカルパッチョ

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 8

- ・その④ ～そんなことキュウリ言われても!～

交通安全のお知らせ 8

- ・全国交通安全運動の実施について

トピックス 9

- ・営農コラム

マンスリーレポート

～包括連携協定4者の取り組み～

キッチンカーコラボイベントで県産スタチと茄子をPR

7月30日、J Aアグリあなんスタジアムで開催された徳島インディゴソックスと福岡ソフトバンクホークス戦において、「キッチンカーコラボすだちPR」イベントが開催されました。

これは株式会社トリドールHD、徳島県、とくしまブランド推進機構、そして当県本部の4者が、昨年7月締結した包括連携協定に基づく取り組みの一環として、締結先所有のキッチンカーを用いて徳島県の特産物の調理品を観客に振舞い、消費拡大をはかるため実施されたものです。

スタジアムの周りには、ホットドッグや焼きそばなどを販売する複数のキッチンカーが並び、丸亀製麺キッチンカー（株式会社トリドールHD）では、県内外から訪れた来場者先着200人へ熱々のスタチとなす天の「特製うどん」が振舞われました。また、でり・ばりキッチン阿波ふうど号（とくしまブランド推進機構）でも「すだちゼリー」が先着400人に振舞われました。（徳島県産スタチと茄子は徳島県本部提供）

和歌山県から家族で観戦に訪れた女性は「スタチの香りや味が大好きです。うどんもゼリーも美味しかったです」と県産食材の魅力を堪能されていました。

なお、5回裏終了後には、すだち大使の河野さんがMr.インディーとともに一塁側ベンチ前に登場し「徳島県のスタチは全国で98%のシェアを誇る県を代表する農産物です。皆さま、スタチを食べて健康的な毎日を過ごしましょう!」と需要喚起をおこないました。



スタチとなす天の「特製うどん」



子供たちにも「特製うどん」が大好評!



「すだちゼリー」を振舞うすだち大使の河野さん



Mrインディーと一塁側ベンチ前でPR

～全国の主要市場で一斉に販売開始～

露地スタチの初売り

8月8日、徳島県産露地スタチの販売が全国の主要青果市場で一斉に始まりました。

初セリのこの日、当県本部大阪事務所職員が早朝より大阪市卸売市場本場のスタチを取り扱う仲卸20社を訪問し、露地スタチ(3個入小袋)の他、除菌シート・ジップロック・リーフレットの入ったスタチグッズ(100セット)を配布し、今年の徳島県産露地スタチのPRと有利販売を依頼しました。

なお、この日は、大阪本場に約1,800kgの入荷があり、中心階級で1,800～1,600円/ケースでの販売となり、近年で最も高単価での販売開始となりました。

また、翌9日には、関東市場でも露地スタチ(3個入小袋)やスタチグッズを仲卸へ配布し、露地スタチのPRをおこないました。



大阪事務所佐藤所長(右端)が訪問しPR

～徳島インディゴソックス「徳島県民応援デー」～ 「ご当地ジュース」をPR

8月21日、徳島市のむつみスタジアム(蔵本公園野球場)で開催された四国アイランドリーグPlus2022後期公式戦「徳島インディゴソックスvs香川オリーブガイナーズ」で、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会および徳島県にんじん振興協議会の関係者は、徳島県産のスダチとニンジンを使用した飲料水(ザすだちとザ・キャロット)をPRしました。

県内在住・在学すべての方が無料観戦できる「徳島県民応援デー」と名付けられたこの日、親子連れなど多くの観戦者が訪れるなか、関係者は開場の16時30分から入場ゲートで先着200人にザすだちとザ・キャロットを手配りました。

試合前のセレモニーでは、飯泉徳島県知事の激励のあいさつに続いて、すだち大使の古川さんが両チームキャプテンにザすだちとザ・キャロット各1箱を贈呈しました。

5回裏終了後には、古川さんがすだちくん、Mr.インディーらとともに一塁側ベンチ前に登場し、観客に県産飲料の特徴やおいしさをPRしました。

なお、試合は2-1で徳島インディゴソックスが僅差のゲームを制しました。



入場ゲートでザすだちとザ・キャロットを配るすだち大使の古川さん



両チームにザすだちとザ・キャロットを贈呈し記念撮影

すだちくんやMrインディーらと一塁側ベンチ前でPR

～香川県とスダチがコラボ～

「さぬきの夢応援店」17店舗の うどん店でスダチPR

8月26日～9月4日の10日間、当県本部および徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会は、JA香川県や香川県内のうどん店と連携した「さぬきの夢」うどんと「さぬきの青ねぎ」「阿波のすだち」コラボフェアを開催し、徳島県産スダチのPRをおこないました。

同コラボ企画は、今年で13回目を迎え、オープニングイベントが開催された高松市の「さぬき麺業 いしうす庵レインボー店」には、当県本部園芸部より二木部長、すだち大使の古川さんのほか両県より関係者10人が参加し、「さぬきの青ねぎ」と「阿波すだち」の贈呈式や記念撮影などが催されました。

期間中、香川県内「さぬきの夢応援店」の認定を受けたうどん店17店舗で徳島県産スダチと香川県産青ネギを使った限定メニュー・トッピングが提供され、ご注文いただいたお客様に数量限定ですだち関連グッズなどがプレゼントされました。



オープニングイベントの様子



「さぬきの青ねぎ」「阿波のすだち」が並べられ、コラボキャンペーンをPR

マンスリーレポート

～徳島県産農産物の魅力を発信～

「阿波ふうどフェア」北海道でPR

8月27日～28日の2日間、北海道北広島市のホクレンくるるの杜で徳島－札幌線利用促進キャンペーン「阿波ふうどフェア」が開催されました。(主催＝徳島県、徳島空港利用促進協議会、共催＝徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会、徳島県農産物消費拡大協議会)

会場のテントブースでは、すだち大使の古川さんをはじめすだちくんや当県本部園芸販売課職員、徳島県関係者などが、PRのため梨やスダチ、なると金時などの徳島県産農産物や飲料・加工品の販売をおこないました。ブースは来場者の行列ができるほど好評で、早々に全ての商品が完売しました。

また、徳島県のPRトラック「新鮮なっ!とくしま」号では、スダチとなると金時を使ったメニューが両日合計500食来場者に振舞われました。

すだちくんととのじゃんけん大会や会場内の農村レストランでのスダチの提供、地元北海道「さっぽろしのじ連」の阿波踊りも披露され、2日間に亘り徳島県の「食」や「観光」などの魅力を大いに発信しました。



試食を振舞うすだち大使の古川さん



早々に完売する人気となった県産農産物の販売ブース



すだち大使の古川さんと「さっぽろしのじ連」の皆さん

～徳島ヴォルティス「徳島県民デー」～

徳島県産スダチ・なると金時・梨をPR

8月27日、徳島県農産物消費拡大協議会は、鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアムで開催された「徳島ヴォルティスvsレノファ山口FC」戦にブース出展し、徳島県産スダチ、なると金時(里むすめ)、梨(豊水)などの販売をおこないました。

この日は県内在住の小中高生の無料招待や、県内各自治体がブース出展し特産品を販売するイベントなどが催される「徳島県民デー」となっており、スタジアム前に乗り入れた徳島県のPRトラック「でり・ばりキッチン阿波ふうど号」では来場者に梨やスダチを使ったゼリーが振舞われました。

カットした梨の試食は「みずみずしく、甘くてとても美味しい」と多くの来場者から大好評でした。

試合前には飯泉徳島県知事、すだち大使の河野さん、すだちくんらが参加して記念品贈呈などのセレモニーがおこなわれ、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会、徳島県なし消費拡大協議会から提供されたスダチ3kg、梨30kgが両チームなどへ贈られました。



園芸販売課職員がスダチやなると金時、梨などの販売



両チームなどに梨とスダチを贈呈し記念撮影

～未利用資源の有効活用へ～

徳島県、徳島大学との「産学官連携による地域バイオマスを有効活用した持続可能な農業の実現と関連産業の振興に関する協定書」締結式

8月1日、当県本部、徳島県、国立大学法人徳島大学の関係者14人出席のもと、徳島県庁で、「産学官連携による地域バイオマスを有効活用した持続可能な農業の実現と関連産業の振興に関する協定書」締結式がおこなわれました。

3者の最初の取り組みとして、徳島県はスダチの搾汁残渣を利用した精油の研究に関する知見の提供、徳島大学は精油の抽出技術や生産プロセスの開発などへの協力、当県本部は化粧品や食品などに利用されるスダチフレーバー、フレグランスの製造・販売を検討しています。また、そこから得られる収益は、生産者の手取り向上と生産振興のために活用したいと考えています。

締結式では、当県本部（長江県本部長）、徳島県（飯泉知事）、徳島大学（河村学長）の3者が協定書へ署名をおこないました。

今後、3者が有する人的資源や物的資源を有効に活用し、スダチ搾汁残渣などの未利用資源に付加価値を創出することで、県内農産物の生産振興に寄与し、SDGsやみどりの食料システム戦略に繋がる環境配慮型事業の展開を目指します。



協定書を持つ、（右から）長江県本部長、飯泉知事、河村学長



署名の様子

～持続的なれんこん生産に向けて～

れんこん栽培研修会

8月5日、徳島県と当県本部は、生産量全国2位を誇る本県れんこんの栽培技術や情報、課題認識を共有し、持続的なれんこん生産に向けて適切な対応をはかることを目的に徳島県JA会館で「れんこん栽培研修会」を開催しました。

当日、徳島県からは勝野副知事が出席し、また県外から専門研究者を招待したこともあり、会場には生産者、JA、肥料・農薬メーカーなど関係者約70人が集まりました。

研修会では、徳島県の勝野副知事、当県本部宮田副本部長のあいさつの後、徳島県もうかるブランド推進課次世代農業室の林室長より、「徳島県の『れんこん』の産地強化に向けた取組み」、鳴門藍住農業支援センターの澤田課長補佐より、「れんこんの腐敗症対策の取組み」が紹介されました。

また、招待した愛知県海部農林水産事務所普及課の成瀬主任専門員からは、「露地れんこんにおける太陽熱消毒の効果実証の状況について」と題し、愛知県での実証事例についての説明などがおこなわれました。

近年、収量減の一因となっているれんこん腐敗症に対して、当県本部は徳島県および県下JAと協力し様々な対策試験を実施しています。今後も生産者の収量維持・取得向上に繋がるよう関係団体で連携し取り組んでまいります。



あいさつを行う宮田副本部長



研修会の様子

マンスリーレポート

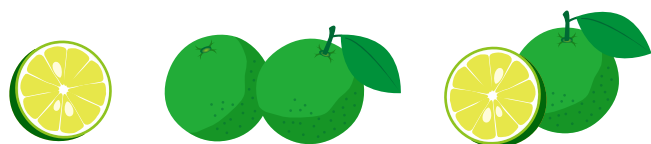
～令和6年春頃からの供給に向け～

スダチ新品種「勝浦1号」

当県本部では、徳島県が開発したスダチの新品種「勝浦1号」に関する利用権の許諾を受け、苗木の育成、販売をおこないます。初年度は、約1,500本の販売を計画しており、令和6年春頃からの供給を予定しています。

「勝浦1号」は、果皮の緑色が濃く、貯蔵性の高い晩生品種であることが特徴です。この品種は、農林水産省より令和3年11月29日に品種登録出願公表されました。

「勝浦1号」が持つ晩生品種の特徴を最大限に活かし、2月から3月出荷の秀品率を高め周年供給体制をより安定させるため、当面は「貯蔵すだち」の後期（2月から3月）に出荷する生産者を対象に苗木を販売する予定です。



芽接ぎの様子（苗木生産の開始）



苗木の台木（カラタチ）

～阿波踊り観光客などに徳島県産スダチをPR～

徳島駅バルすだちフェア

8月10日～31日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会は、JR徳島駅バル飲食店街で「徳島駅バルすだちフェア」を開催しました。

期間中、駅バル全8店では同協議会より提供されたスダチを使った料理や飲み物のメニューが並び、県内外から訪れた多くのお客様は徳島県産スダチの爽やかな香りや美味しさを堪能しました。



酒とめし 酒場ダン



NARUTO BASE.BAR



すし酒場 一鐵



焼肉酒場 ブッチャー



溶岩焼きステーキ やっぱりステーキ



カラアゲ・ハイボール 男前カラアゲ



点心バルやすなが



焼鳥酒蔵 よい鳥



すだちと鯛のカルパッチョ



▼材料(2人分)

すだち……………3個
鯛(刺身用)……………100g
トマト……………1/2個
生わかめ……………50g
青じそ……………2枚

A { エキストラバージンオリーブ油 … 大さじ3
塩、こしょう…………… 各適量

▼作り方



① すだち2個は皮をすりおろして搾り、残り1個は輪切りにする。



② ボウルに鯛のそぎ切りとAを混ぜておく。

③ トマトとわかめを食べやすく切り②を混ぜ合わせ①を加える。

POINT

先に鯛にAを混ぜる事で味がまろやかになります。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許:調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞:2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴:TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演/ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント:大阪ガスハグミュージアムにて鰯を使った爽やか料理講習会/大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師:兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師/神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西區民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

うまいモノ絵日記



文：濱堀秀規 イラスト：ちっちゃん

その148

～そんなことキュウリ言われても!～

◆そんなことキュウリ言われても!◆

まだまだ残暑が続きますが、皆様ごきげんようお過ごしのこととお察しいたします。夏バテになっておりませんか？夏バテに効果がある、野菜は何でしょうか。「そんなこと、キュウリ言われても」と言う声が聞こえてきますが、「睡眠と栄養と水分」を十分とって、お元気にお過ごしいただきたいと思います。水分を十分取るには、キュウリで決まりです。

を後押しした。その後、日和佐農林管内では国の補助事業で大型ハウスも建設し、「海部きゅうり塾」と名を売って、県外から移住してキュウリ生産をはじめる方々を積極的に育成する素晴らしい取り組みを行っている。

当時の先輩方からの言葉を思い出す「モノ（キュウリ）を持ってないと、イザと言うときに売るにも売れん。安い高い言わんと、作らなあかん」と生産の後押しに尻をたたかれた時代であった。外部からは、ハウスばかりに補助金を出してと、言われたこともあったが、今となっては、JAや全農とくしま、商系関係者らも後押ししてくれた。生産振興に感謝である「ありがとう、サンきゅうり」。

◆徳島県内の産地◆

JA全農とくしまからの情報によると、徳島県産のキュウリは県内全域で栽培されています。冬から春にかけては県東南部で促成きゅうりが、夏から秋にかけては県西部へ夏秋きゅうりが産地として移動していきま。主な産地は、JA東とくしま、JAかいふ、JAアグリあなん、JA徳島市、JA板野郡、JA徳島北、JA阿波みよし、JA麻植郡、JAあわ市などです。

◆キュウリを育てるのに、必要なもの◆

それは、太陽と水。そして、生産ハウスである。阿南農林事務所勤務時の昔話であるが、JAアグリあなんもキュウリ生産に積極的であった。JA担当者からの要望で、県単独の簡易なパイプハウス建設の補助金は、すべてOKに認めてキュウリ生産

徳島のきゅうり



シャキとした歯ごたえ

交通安全のお知らせ

全国交通安全運動の実施について

本年も秋の全国交通安全運動を実施します!交通ルールとマナーを遵守し、安全運転に努めてください。

1 目的

広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的としています。

普段から「思いやり・ゆずり合い」の運転で交通マナーを守り、安全運転をお願いします。

2 期間

9月21日(水)から30日(金)までの10日間
交通事故死ゼロを目指す日：※9月30日(金)

3 運動重点

○子供と高齢者を始めとする歩行者の安全確保

※車の運転手は、歩行者の側方を通過するときは、安全な間隔を保持するか、または徐行しましょう。通学路や生活道路等では、十分速度を落とし、安全運転を心がけましょう。

※歩行者は、道路を横断するときは横断歩道を渡り、絶対に車の直前

直後の横断はしてはいけません。横断歩道がない場合は、左右の確認を十分に行って横断しましょう。

○夕暮れ時と夜間の歩行者事故等の防止及び飲酒運転の根絶

※自動車等の早めのライト点灯を心がけ、対向車や先行車がない状況ではハイビームの活用等、上向き・下向きのこまめな切替えをお願いします。

※歩行者は、夜間外出時の明るい服装及び反射材着用を心がけましょう。

※飲酒運転による悲惨な交通事故は後を絶ちません。皆さんで飲酒運転を絶対に「しない・させない・許さない」環境作りを徹底していきましょう。

○自転車の交通ルール遵守の徹底

※自転車は車両の仲間です。車道では左側を通行するとともに、歩道では車道寄りを徐行しましょう。また、スマホ運転や信号無視などの危険な行為はやめ、交通ルールを守ってください。

徳島県警察本部 交通企画課



営農コラム

イチジク

営農支援課 技術主管 森 聡

イチジクはアラビア半島原産で、6000年くらい前から栽培が始まっています。アラビアからヨーロッパ、ペルシア、中国へ伝わり、中国から長崎へと伝わりました。

日本では、イチジクといえば西日本を中心に古くから栽培されている「蓬莱柿(ほうらいし)」のことを指していました。果実の頂部が裂れやすく日持ちしないため近場で消費されていました。今は流通技術もよくなり、全国への配送が可能になっています。江戸時代に中国から伝わり、外国の柿のような果実ということで「蓬莱柿」、「南蛮柿」などと呼ばれていました。果実は小さめですが、甘くて適度な酸味があり、プチプチとした食感のおいしいイチジクです。日本では在来種とか日本イチジクとも呼ばれています。

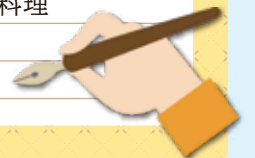
「榊井ドーフィン」は、明治の末期に広島に榊井氏がアメリカから持ち帰ったイチジクです。「ドーフィン」が正式名称ですが、栽培すると「ドーフィン」と異なる特性がみられたため、区別するために榊井の名を付けて「榊井ドーフィン」と呼ばれるようになりました。「蓬莱柿」に比べて食味は落ちますが、栽培

しやすく、大果で収量も多く、日持ちもよく、果皮も硬めで輸送性にも優れるため主流となり、今ではイチジク全体の約8割を占めています。イチジクといえば「榊井ドーフィン」となっています。

イチジクには前年の枝についた幼果が越冬して7月頃に熟す夏果と、当年の新梢に成って熟す秋果があります。夏果には「ザ・キング」、夏秋果には「榊井ドーフィン」、「バナーネ」、「とよみつひめ」、秋果には「蓬莱柿」、「ビオレ・ソリエス」などがあります。

イチジクは漢字では「無花果」と書きますが、花がないのではなく、果実の中の小さなつぼつぼが花なのです。果実が成り始めると次々と連続的に成り、日持ちしないため毎日収穫・出荷となり、生産者は休みも取れず大変ですが、家庭用として一本植えて楽しむのにはちょうどよい果樹といえます。

イチジクは栄養も機能性も豊富で、甘くて柔らかくておいしい果物です。そのまま味わうのはもちろん、ジャム、スイーツ、ケーキ、さまざまな料理の食材に活用すれば食べる楽しみが広がります。



企画管理課

～副賞・フェアプレー賞に徳島県産飲料を提供～ 「全農杯 2022年全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部)」全国大会

7月28日～31日の4日間、兵庫県神戸市のグリーンアリーナ神戸で「全農杯 2022年全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)」の全国大会が開催されました。

この大会は、各都道府県大会を勝ち抜いた小学生の児童979人が集結し、ホープス(小学6年生以下)、カブ(同4年生以下)、バンビ(同2年生以下)の各部に分かれ頂点をめざすもので、歴代の日本代表選手もこの大会に出場しています。

当県本部は、各部門の1位～3位に入賞した男女合わせて24人の選手に徳島県産スダチ飲料「徳島すだち微炭酸」を副賞として贈呈しました。また、フェアプレー賞の選手男女各1人に「ザすだち」を贈りました。



女子バンビの部表彰式



徳島県本部から、徳島すだち微炭酸(飲料)などの県産飲料を贈りました。

～「阿波そだち」の新米を味わって～

児童養護施設に徳島県産の新米を贈る

8月31日、JA徳島農政協議会と当県本部は、県内7カ所の児童養護施設の子どもたちに美味しい新米を食べてもらうことを目的に、令和4年産の徳島県産米「阿波そだちコシヒカリ」500kgと徳島県産スダチ飲料「ザすだち」8ケース(240本)を贈呈しました。

この取り組みは、同協議会と当県本部が子どもたちの健やかな成長を願い、社会福祉活動の一環として昭和60年(1985年)から毎年実施しているもので、今回で38回目になります。

当日は企画管理課職員が、徳島市北佐古の徳島県JA会館物流センター前で、児童養護施設の職員に手渡しをおこないました。

施設を代表して加茂愛育園の片山和義園長から「運動会のお弁当で食べたいと思います。毎年温かいご支援をいただきありがとうございます」とお礼の言葉をいただきました。



加茂愛育園の片山園長(右)へ新米を贈る企画管理課有内次長



新米と飲料の積み込みを行う企画管理課職員

園芸販売課

～YouTube動画で大人気!～

徳島県産農産物で「リロ氏」とコラボ動画

徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会、徳島県農産物消費拡大協議会、徳島県蓮根消費拡大協議会、徳島県甘藷消費拡大協議会は、徳島県産農産物の消費宣伝の一環として、YouTubeで大人気のリロ氏とのコラボ動画を作成しました。

リロ氏はキャンプなどで使用するホットサンド

メーカーを使ったYouTube動画やTwitterでも多くのフォロワーを獲得し活躍するVtuberです。

各協議会では、本年度アウトドアイベントを企画しており、コラボ動画は近年人気の高いアウトドア向けの動画となっております。

8月31日より動画「ザクザク夏野菜カレー」が公開されていますので、ぜひご視聴ください!

<ザクザク夏野菜カレーYoutube動画>

<https://youtu.be/yIVo1HxIBJY>



徳島県本部人事異動

令和4年9月1日付

氏 名	コース	職能資格	新 職 務 ・ 職 制	旧職能資格	旧 職 務 ・ 職 制
村上 哲	総合職 (徳島)	監理役	管理部 部長 管理部 総務課 課長 事務取扱 管理部 コンプライアンス統括課 課長 事務取扱	監理役	管理部 部長
尾田 雅夫	総合職 (徳島)	副審査役	本所 経営企画部 JA支援課	副審査役	管理部 総務課 課長 管理部 コンプライアンス統括課 課長 兼務
豊田 勝弘	総合職 (徳島)	調査役	管理部 総務課 課長代理	調査役	管理部 企画管理課 本所 経営企画部 JA支援課 兼務



「徳島かんきつアカデミー」体験見学会 参加者募集



徳島かんきつアカデミーへの関心を深めていただくため、「かんきつテラス徳島」の充実した研修フィールドでの収穫体験やかんきつ園地の見学など、徳島かんきつアカデミーの体験見学会を開催します。

～実習ほ場で体験できるチャンスですので、是非ご参加ください！～

1 日時・場所



- ・休日コース：令和4年11月13日(日) 午前9時から正午まで
 - ・平日コース：令和4年11月16日(水) 午前10時から正午まで
- 場 所：「かんきつテラス徳島」(勝浦郡勝浦町大字沼江字中筋11-12)
- ※新型コロナウイルス感染防止のため、内容等を変更・中止する場合があります。
※参加される方は、マスクを着用や咳エチケット等に心がけてください。

2 内容・行程

休日コース：令和4年11月13日(日)

時 間	内 容
9:00	開 会
9:35	徳島かんきつアカデミー概要の説明
9:50 10:20	みかん収穫体験・園地見学
10:35	バス移動
10:45 11:40	農家見学 勝浦町大字三溪 ～中核的人材育成コース令和3年度修了生のみかん経営視察～
11:50	バス移動
12:00	閉 会

平日コース：令和4年11月16日(水)

時 間	内 容
10:00	開 会
10:35	徳島かんきつアカデミー概要の説明
10:35 11:00	体験講座 ・「かんきつ栽培の基礎講座」について ・「中核的人材育成コース令和4年度受講生の取り組み紹介」
11:15 11:50	みかん収穫体験・園地見学
12:00	閉 会



実際の研修を体験



現受講生から
生の声が聞ける

3 対象者

- ・徳島かんきつアカデミー受講を検討されている方
- ・農業経営に新たな部門としてかんきつ栽培を導入したいと考えている方
- ・県内で就農を検討している方 等

4 募集人数

各コース20名(先着順)

5 参加費

無 料

6 申込方法

令和4年11月1日(火)までに、電話またはファクシミリ、メールで
①お名前 ②年齢 ③住所 ④電話番号(日中連絡がつくところ)をお知らせください。



7 お問い合わせ・お申込み先

徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校(勝浦) かんきつ人材育成・交流担当 安宅、富田
電話番号 0885-42-2545 ファクシミリ 0885-42-2574

新米

あきさかり キャンペーン



徳島県産あきさかり (2・5・10kg)



無洗米 徳島県産 あきさかり (2・5kg)

徳島県産あきさかりを買い
抽選で「徳島県の特産品」が

合計200名様に 当たる!!

応募期間 **2022.12.19** (月)まで

※ハガキは当日消印有効
※賞品写真はイメージです



A賞 阿波牛
100名様 (すき焼き用 400g)



B賞 旬の徳島産フルーツ
100名様 (3000円相当)

商品添付の応募シールから
ご応募ください!

あきさかり 新米 合計200名様に
キャンペーン

徳島県産あきさかりを買い
抽選で徳島の特産品が当たる!

A賞 阿波牛 (すき焼き用 400g) 100名様	B賞 旬の徳島産フルーツ (3000円相当) 100名様
---------------------------	------------------------------

応募期間 **2022.12.19** (月)まで 当日消印有効
応募方法 シールをめぐり、中身のQRコードからスマ
スで応募するか、シールや裏面の応募シールをハガキ
に貼付して郵送すると、抽選で200名様に「徳島の特産
品」をプレゼント。(詳しくはシール参照)
【注意事項】◎住所不明・転居等の理由により賞品の発送ができない場合
は、当選の権利を無効とさせていただきます。◎当キャンペーン
の規約、応募条件は予告なく改訂される場合がございます。◎抽選の抽選
は日本国内に限定させていただきます。◎抽選の結果は賞品の発送をもって
かえさせていただきます。◎賞品内容は変更になる可能性があります。

【お問合せ】JA全農とくしま 0120-72-3530 JA全農とくしま 阿波ふんど AWAFOOD



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックブック



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
(電話 088-634-2462)
までご連絡ください。

